

令和 3 年 1 月 15 日

秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について（案）

神宮外苑地区市街地再開発事業における秩父宮ラグビー場の移転整備にあたっては、以下を基本的考え方として、今後、日本スポーツ振興センターにおいて、日本ラグビーフットボール協会をはじめとした関係機関と連携しながら具体的な検討を進めていくこととする。

1. 我が国のラグビーを象徴するスタジアムとして、「秩父宮」の名称を引継ぐとともに、ラグビー競技の国際統括団体であるワールドラグビーが求める国際大会の基準を踏まえたラグビー場を整備する。
2. ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設にするとともに、他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途でも快適に使用できるよう全天候型のラグビー場を整備する。
3. 神宮外苑地区再開発事業のスケジュールの遵守を前提として、全天候型のラグビー場への見直しに伴う秩父宮ラグビー場の閉鎖期間を最少限となるよう整備を進める。
4. 都市計画に基づき地域の機能の向上を図るべく、「スポーツを通じた共生社会の実現」をテーマに、あらゆる人々との共生（ユニバーサルデザイン）、地域との共生（周辺との連携、景観との調和、防災機能の充実による安全・安心の強化、地域の賑わいづくりの増進）及び地球との共生（再生可能エネルギーの活用等の地球環境への配慮）を含めて整備後の維持管理や公益に資する運営等を十分考慮した計画とする。
5. 全天候型のラグビー場への見直しに伴う財源の確保及びホスピタリティ機能を充実するため、民間のノウハウと創意工夫を最大限活用できるよう施設整備及び運営に民間活力を活用した事業方式（PFI 事業／BT＋コンセッション方式）により整備する。
6. 「観るスポーツ」の価値を最大化するため、ICT の活用等により高付加価値のサービスを提供できるスマートスタジアムとして整備する。